

リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
あしや活動
センター
リードあしや
記事
寺本 空未

英語を楽しく勉強

リードあしやで開かれた「あんあーと」で、達城あや子さんは子どもたちに英語の手ほどきをした。子どもたちが英語で名前、出身地、好きなものを言えるよう、幼稚園に入学する前の幼児から小学生までの参加者にレッスンをした。

達城あや子さんの教室

子どもたちは、まったく英語がわからなくてもリズムに合わせて先生の言ったことを真似することで、楽しく勉強ができ、自然と英

語が話せるようになっていった。英語では当たり前だが、下の名前と呼ぶことで生徒同士だけでなく、先生とも親しみやすい関係が作

られていた。

達城さんは丁寧に話を聞き、まずは日本語でも良いので、話ができるよう笑顔で話しかけていた。子どもたちは緊張もほぐれ、楽しく勉強していた。



子どもたちと公平に向き合う

達城さんに聞く

子どもたちを教える上で大切なのは、一人一人と公平に向き合うことです。芦屋という町が障害のあるなしに関わらず声を掛け合える人が集まる街になってほしいと思っています。

子どもが英語を学ぶことが当たり前になっていく今、母語である日本語を大切にしていけないといけないと思っています。

学校で英語を学ぶということは、テストがあったりするので、嫌な思いを持つてしまいがちです。だからこそ「楽しく学ぶ」ということが、大切になってきています。

私は英語が苦手な子が大好き。そんな子を伸ばしていければと思っています。

「関係」を大切にレッスン

「障害のあるなしに関係なく、学べるようにしたい」と思ったからだという。

今回のレッスンでも、最後には子どもたちが自分の意見をしっかりと伝えるようになっていた。カードを作ったり体を動かしたりす

ることで、記憶に残りやすく、分かりやすいレッスンとなるよう工夫がされていた。

このように子どもたちとの関係を大切に、楽しさを追求した授業が印象的だった。

達城さんは、今回のイベント以外にも、芦屋市の「お笑い英会話」や神戸アイライト協会で教室を持ち、多くの子どもたちに英語を教えている。このような活動を始めたきっかけは、「英会話を楽しくできるような環境を作